



アクト

第13号

2010年10月18日発行

九州国立博物館を愛する会

ご あ い さ つ

九州国立博物館を愛する会 理事長 前田和美

平素より会員の皆様には愛する会の事業に対しご理解、ご協力頂きまして心より御礼申し上げます。本年度、九州国立博物館は開館5周年を迎え、大きく飛躍されると期待しています。私ども「九博を愛する会」は本年度、市民と九博の「かけはし」と成るべく、九博と共に歩き、行動する市民団体としてその役割を果たす様、多くの事業を展開しています。また、私たちは九博を文化振興の中心と位置付け、素晴らしい「まちづくり」「ひとづくり」を目指し邁進しています。会員の皆様、この輪をもう一重も二重も広げ、「この博物館と出会って良かった」「この街に住んで良かった」と言える様、更なるご支援をお願いし、ご挨拶と致します。



古都の光と政庁まつり

「太宰府古都の光」と「太宰府市民政庁まつり」を終えて

九博開館 5 周年を祝って遣唐使船！



点火式に臨む神官さんと巫女さん

「太宰府古都の光」は九博開館を記念して始まりましたので今年で第 5 回目を迎えました。

今年もこのお祭りは小・中学生、保育園児その他関係者のご協力で「光の道」が 6 千数百の絵灯明等で九博から参道、五条、観世音寺、政庁跡、国分、水城跡（東門・西門）と一本の道に繋がりました。又、これらの灯明を地域の皆さんが温かく見守り、提灯を手にそぞろ歩きをする風情が各所に見られたことでしょう。

私たち九博を愛する会はこのイベントの協力団体として今年も参加、九博点火式（三輪館長・井上市長・西高辻宮司のかがり火への点火）会場での大切な役割を果たす事が出来ました。特に今年には会員の宮内啓一氏の発案で平城（奈良）遷都 1300 年を記念して話題を呼んだ遣唐使船等をモデルに、九博の森の竹を大小の竹ヒゴにして、それを 2000 個近くのボルトとナットで組上げ、和紙とテープ等



……宮内氏設計の遣唐使船……

で装飾、約五分の 1 サイズの大型オブジェの遣唐使船を凡そ 2 ヶ月かけて制作しました。（詳細は宮内啓一氏のリレー随想欄をお読み下さい）



九博前の絵灯籠(小中学生や保育園児が描きました)

当日御覧になれなかった方は写真等で想像ください。九博会場の星空の下、遣唐使船が一際輝く姿は予想以上の出来栄えでしたので制作に携わった方々は勿論、多くの方に喜んでいただいたと思います。しかし、この遣唐使船（大型オブジェ）は保管場所の問題から明日にも解体する運命でした……

しかし、政庁祭りに見事に復活したのです。

また影絵は九博が収蔵する凡そ450年前に書かれた医学書、「針聞書」を基に書かれた絵本「はらのなかのはらっぱで！」を題材に会員の佐藤敏子氏が「腹の虫、おなかの中で大きわぎ！」という脚本を書き、約30体の人形（お腹の中の虫等）を猛暑の中、会員がそれぞれ協力しあい制作、大町公民館で練習を積み、特に今回は、子役に太宰府小学校3年の2人のお子さんに、また JC（筑紫青年会議所）関係の方



虫たちはもちろん会員たちの手作りです

にも声の出演をお願いし大好評のうちに終わる事が出来ました。

さらに九博会場西側広場は九博ボランティアの皆さんが太宰府東小学校児童の絵灯明330個を飾りつけ、自分の絵灯明を探し当て家族で記念写真を撮る微笑ましい様子や、ボランティアとの交流を楽しむ姿など随所に見受けられ、また昼間のワークショップで作成した竹とんぼを夜空に飛ばし楽しむ家族もあったようです。

このように「太宰府古都の光」は天候にも恵まれ、また多くの皆様のご協力のお蔭で無事終える事が出来ました。心から御礼申し上げます。



みんな、食い入るように見えますね。



声を担当した人です



影絵に携わった人たち。人形操作も大変でした。



「太宰府市民政庁まつり」

今年も事業委員会の活動としてテントブース内でのワークショップ（勾玉作り・風車作り）と影絵を子どもたちに楽しんでもらいました。また先の「太宰府古都の光」で大好評のあの遣唐使船を一日限りで解体処分するのはもったいないと言う皆さんの強い要望もあり九博の清水副館長等のお計らいで急遽、「政庁まつり」に出展する事になりました。そのため宮内氏をはじめ多くの会員の皆さんには、さらに一週間ご協力をお願いすることになりましたが、お蔭さまで会場入り口付近中央に高々と政庁まつりのテーマにぴったりの遣唐使船が飾られ多くの市民の皆さんの目を楽しませたのではないのでしょうか。このことは今まで以上に愛する会の PR 活動にも貢献できたのではなかったかと思っております。ワークショップの準備から運営まで、そして遣唐使船の飾り付けから解体作業までご協力いただいた会員の皆さん本当にありがとうございました。



こうやって切るのね。

そうよ。
上手ね。



はい
どうぞ。

事業委員長
松岡良一



う~ん。どうやって
作るの？



無料体験教室は大盛況でした





夜に輝いています。

本当に海を渡っているみたい。昔の苦勞が偲べれます。



風流だね。大宰府だよ。



月のウサギもこの船を眺めているのかな？

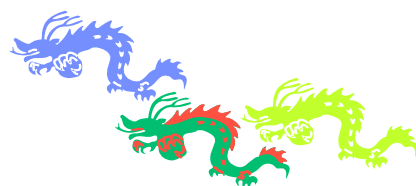


開催日	時間	その他条件	もよおし	会場	問合せ (注1)
10月5日(火)	14:00~ 15:30	要事前申込・無料・ 定員280名 (特別展の観覧券半券 の提示が必要)	記念講演会 「三国志をめぐる謎」 小説家・三好徹	ミュージアム ホール	B
10月9日(土)	10:30~ 11:00	(特別展の観覧券が 必要)	特別公演 胡弓演奏家・趙国良 「中国王朝への旅 —胡弓の調べにのせて—」	特別展示室 内	B
10月24日(日)	13:00~ 15:10	要事前申込・無料・ 定員280名 (特別展の観覧券半券 の提示が必要)	記念講演会「王朝、技、美の誕生 -中国河南省が生み出した芸術と文化-」 小泉恵英(当館企画課長)、 市元壘(当館企画課特別展室研究員)	ミュージアム ホール	B
10月30日(土)	13:30~ 14:00	無料	中国雑技ミニ公演「ドリームサーカス」	エントランス ホール	B
11月6日(土)	13:30~ 15:00	要事前申込・無料・ 定員280名 (特別展の観覧券半券 の提示が必要)	ミュージアムコンサート 「中国伝統音楽からクラシックまで」 九州交響楽団弦楽四重奏	ミュージアムホール	B
11月7日(日)	13:00~ 14:30 予定	同上	講演会「中国古代王朝の興亡」 小説家・塚本青史	ミュージアム ホール	B
11月14日(日)	11:00~ 12:00	同上	記念講演会「文字の発生と歩み」 書家・新井光風	ミュージアム ホール	B
その他のイベント					
10月5日(火) ~ 10月24日(日)	9:30~ 17:00	無料	九州国立博物館開館5周年記念イベント 「九州国立博物館5周年のあゆみパネル展」	エントランス	A
10月9日(土) ~ 10月11日(月・祝)	10:00~15:30	無料	出前温泉「足湯」	屋外レストラ ン前広場	C
10月23日(土)・ 10月24日(日) 10月30日(土)・ 10月31日(日)	10:00~ 16:00 予定	参加料500円	九州国立博物館開館5周年 記念イベント「九博大茶会」	茶室	A
10月11日 (月・祝)	①13:30~14:00 ②15:00~15:30	無料	九州国立博物館開館5周年記念 きゅーはくミュージアムコンサート 「博多の伝統芸能~博多芸妓の世界~」	ミュージアム ホール	A
10月15日(金) ~ 10月17日(日)	13:00~15:30予定	無料	九州国立博物館開館5周年記念イベント 「九州人形浄瑠璃フェスティバル」	ミュージアム ホール	A
10月15日(金) ~ 10月24日(日)	9:30~17:00	無料	第5回九州地域ブランドフォーラム「九州 郷土品祭り(仮称)」	エントランス・ 屋外	D

開催日	時間	その他条件	もよおし	会場	問合せ (注1)
10月23日(土)	13:30~15:30	要申込・無料・ 定員28名	第4回ガムランワークショップ	ミュージアム ホール	E
10月30日(土)	10:00~17:00	無料・定員300名	九州歴史資料館開館記念特別展 「大宰府—その栄華と軌跡—」開 催記念講演会「展望・大宰府研究 最前線—蔵司跡の調査から—」	ミュージアム ホール	A
10月31日(日)	未定	無料	九州国立博物館開館5周年記念 ボランティア企画イベント 「九博ボランティアフェスタ」	エントランス・ 研修室	E
11月3日 (水・祝)	日本語字幕 12:30~14:00 英語字幕 15:00~16:30	前売1000円 (当日1500円) ※留学生及び外国 人は入場無料	”留学生の日”記念映画 「Tchindon ちんどん」上映会	ミュージアム ホール	F
11月3日 (水・祝)	14:00~14:45	無料	きゅーはくミュージアムコンサート 「懐かしのちんどん」	エントランス	A
11月7日(日)	10:00~13:00	無料	「いいな、いい歯。」週間 普及啓発事業	屋外レストラ ン前広場	G
11月9日(火) ~ 11月14日(日)	9:30~17:00 表彰式14日 14:00~15:30	無料	第32回読売学生書展	エントランス・ ミュージアム ホール	H
11月13日(土)	13:30~15:30	要申込・無料・ 定員28名	第5回ガムランワークショップ	ミュージアム ホール	E
11月23日 (火・祝)~ 11月28日(日)	9:30~17:00	無料	みかわち焼展	ミュージアムホール・ エントランス・研修室	I
11月30日(火) ~ 12月5日(日)	9:30~17:00	無料	西日本能面研究会 第16回新作能面展	研修室	J
12月11日(土)	13:30~15:30	要申込・無料・定員28名 対象:小学生~高校生	第6回ガムランワークショップ	ミュージアム ホール	E
12月12日(日)	① 13:00 ~13:30 ②15:00 ~15:30	無料	きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス ホール	A

※注1

- A 九州国立博物館 NTTハローダイヤル 電話050-5542-8600 (8:00~22:00)
B 読売新聞西部本社 事業部内「中国文明展イベント」係 電話092-715-6071(平日10:00~17:00)
C 福岡県観光温泉地協会(県国際経済観光課内) 電話092-643-3429
D 日本イベントプロデュース協会九州本部(西日本新聞社事業局内) 電話092-711-5550
E 九州国立博物館 交流課 電話092-929-3294
F 映画「Tchindon ちんどん」上映実行委員会 電話092-595-5483
G (社)筑紫歯科医師会 事務局 電話092-572-8211
H 読売新聞西部本社 事業部 電話092-715-6071
I 三河内陶磁器工業協同組合 電話0956-30-8311
J 西日本能面研究会(井上) 電話092-923-1496



九州国立博物館開館5周年記念特別展「誕生！中国文明」

市元 壘(九州国立博物館 企画課特別展室研究員)

アジアの大国である中国を知ること、日本を知ることにもつながります。私たちは物事の多くを「比較」を通して考えるからです。文化交流を掲げる当館において、中国に関する展覧会はたいへん重要な位置を占めているといえるでしょう。

「誕生！中国文明」は、文明の誕生と発展に焦点をあてた展覧会であり、悠久なる歴史の営みを体感頂ける内容です。

『史記』などの歴史書には、中国最初の王朝として夏（か）王朝を挙げています。今からおよそ4000年前に成立したと考えられています。この夏王朝にはじまり、商・周・秦・漢とあらゆる王朝が誕生するわけですが、その多くが河南省に首都や副都を定め、文明を形成しました。本展では、この河南省に焦点をあてて、中国における文明の発展を一望してみようと考えたのです。

本展には溢れんばかりの目玉作品があります。その代表格のひとつが、写真の金縷玉衣（きんるぎょくい）です。これは前漢王朝の頃に、梁という一地方国家の統治を任されていた王が、埋葬に際して身に着けた装束です。玉には肉体の腐敗を防止するなどの効果があると考えられており、中国歴代の権力者はこぞって玉を身辺におきました。その玉文化の頂点ともいえるのがこの作品です。類品は複数出土していますが、この玉衣は日本初公開です。ぜひお見逃しなく。

ところで、私は新しい博物館には新しい中国展がよく似合うと常々思っています。この新しさとは、奇をてらうという意味ではありません。重要だけれども、まだあまり知られていない、今は知られていないけれども、将来かならずスタンダードになる。そのような内容を九州国立博物館では展開したいと考えています。ひるがえって本展は、一見すると普通の中国文明展のようでもあります。しかし、私たちはこれまで知られてきた資料でも、単に王朝（時代）順に陳列するだけでなく、「技の誕生」、「美の誕生」という単元に振り分けて紹介することで、中国文明に新たな光を当てようと試みています。その狙いがどこまで達成できたのかは皆様の判断に委ねたいと思います。

本展は、中国文明が生み出した至宝の数々を一望にできる絶好の機会です。また、展示品は非常に多種多様で変化に富んでいます。じっくりご覧頂ければ、必ずやお気に入りの一品に出会えることでしょう。どうか皆様お誘いあわせの上、心ゆくまで文明の旅をお楽しみください。



金縷玉衣（きんるぎょくい）
永城（えいじょう）市
芒碭山僖山（ぼうとうさんきざん）1号墓出土
前漢時代 前1世紀 河南博物院蔵

九州国立博物館海外展の支援旅行(タイ)のご案内

会員交流委員会委員長 久保山辰己

今回は、来年の1月に開催されます九州国立博物館海外展の支援旅行のご案内です。

九州国立博物館とタイ王国の国立博物館は、国際協力機構（JICA）の協力のもと、平成19年から様々な取り組みを実施されております。

文化財保存と博物館環境の整備を日本とタイの両方で考え、また魅力ある博物館づくりを連携して行うことで協力事業は大きく広がりました。

こうした国際事業における成果として、また、両国の連携を記念して、来年1月から、バンコク国立博物館にて文化庁海外展 『ふたつの国の巧と美』が開催されます。

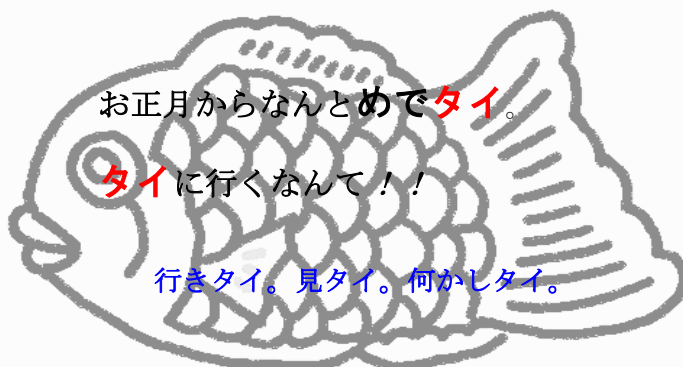
愛する会も、これまでにタイの学芸員の方々と交流をさせていただきました。是非この機会に、九州国立博物館の海外展を支援し、タイのボランティアの方々とさらなる交流を深めていきたいと考え、企画をさせていただきました。

現地では、前日にレセプションに参加し、一般公開の日はタイ側のボランティアの方々とワークショップや交流会も計画中です。

どうか会員の皆様のご参加を心からお待ちしております。

近日中に、詳しいご案内をお届けします。

- ・ 日 程 平成23年1月12日（水）～16日（日） 3泊5日
- ・ 募集人員 60名（定員になり次第締め切らせていただきます）



古都の光のオブジェ「遣唐使船」を作る

事業委員会 宮内啓一

「太宰府古都の光」に参加することになった。

光のオブジェとして何をするか・・・？ 事業委員会で協議した結果、少し変わった発想だが、「光の道」の出発点でもある点灯式会場を飾るものとして、古都より光を運び続けていた「船」はどうだろうか・・・。太宰府にも繋がり深い、奈良平安の都と中国との文明の光を運んだ遣唐使船をオブジェとし、篝火と竹灯籠の明かりで幻想的に浮かび上がらせるという、アイデアが取り入れられた。今回製作予定のこの船は、古都の光当日だけの航海なのである。材料は、九博の森の竹と和紙で作りにすることにした。

千三百年も前の船なので、古い絵巻に描かれた姿しかなく、教科書に出ている想像画を参考にし、スケルトン図を描いて小型模型を作り、グループ会員で製作実施の検討を行い、想像実遣唐使船の5分の1（船長約6m.）の船を作ることに決め、早速準備に取りかかった。長時間の製作工程と作業場所、保管の問題に悩ませられたが、会員の協力で自宅と公民館、九博駐車場を借りることができた。

7月下旬猛暑の中、グループ全員九博竹林で竹の切り出しから竹割、加工、竹灯籠作りにと汗を流した(^_^)。船本体は会員の自宅で加工製作、船の基礎は竹筒の筏式組合せの平底とし、船体は竹材のフレームを箱型に組上げ、船屋部は竹ひごで組立て式とし、全体を組立て試作した。

9月中旬に試作船を一度解体して、九博駐車場に運びグループ全員総出して船本体の再組立てをした。「古都の光」の5日前に和紙貼り、化粧飾り等で実に見事に仕上がった。この船は風雨に弱く、難破船に？なりかねないので出帆までの保管対応に苦労した。

9月25日たった一日の航海の船に大変な手間がかかったが、市民の皆さまに見て楽しんでいただけるようにと会員の皆が心を一つにして頑張ったお蔭で立派なオブジェが出来上がった。

当日は天気にも恵まれ、無事点灯・・・。なんと素晴らしいこと・・・、感動！！。時折強い風が吹き、灯籠の灯も消えそうになったり、帆柱も風でしなり遣唐使苦難の航海を思わせるような場面もあったが、日が沈み風は弱まり辺りが幻想的な良い雰囲気になりまたもや感動！！・・・。

一夜限りの遣唐使船として翌日には解体することを決めていたが、生憎の雨となり本当に難破寸前の状態に心が痛んだ・・・。

解体のことを考えると何とも複雑な気分になっていた。そんな時、もう1度10月2日の「政庁まつり」への航海の要請があり、急遽出帆に備えドックいり、会員総出で修理組立、再航海となった。政庁まつりでは、会場中央正面に堂々と飾られ、多くの市民に見ていただき、「オブジェ遣唐使船」は、大役を果たしたのである・・・、(^。^)ノ。

編集後記

中国文明展と共に「愛する会」の活動が日本と中国のかけはしになりますように！